

■コメント

1. ヘルパンギーナ

定点当たり報告数は1.46人と、前週と比べて約2倍に大きく増加しています。

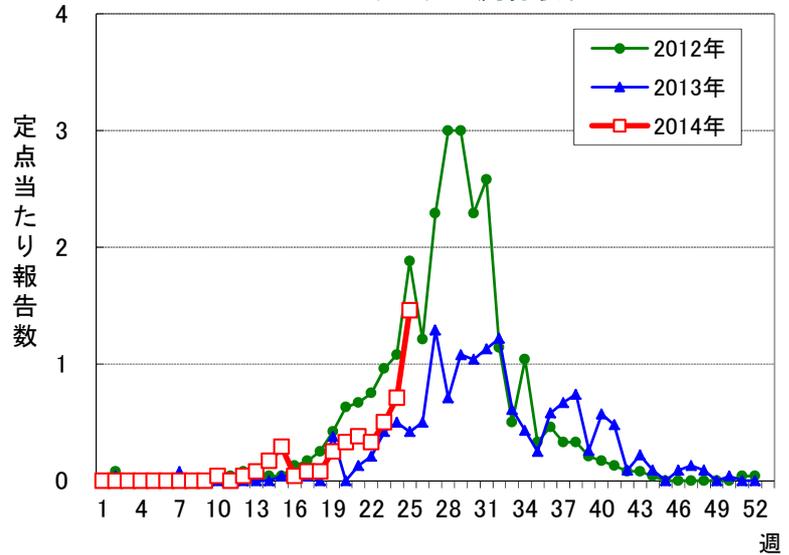
ヘルパンギーナは、毎年6月から8月の夏季を中心に流行するいわゆる「夏かぜ」の代表的な疾患です。主にA群コクサッキーウイルスを病原体とし、発熱と口の中に水疱ができることが特徴です。

予防方法としては、手洗い・うがいの励行が大切です。

2. レジオネラ症

1件の報告があり、今年の累計は10件となりました。(次頁参照)

ヘルパンギーナの流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
フィルン	インフルエンザ	3	0.08	0.04		小児科	流行性耳下腺炎	19	0.79	0.83	◇
小児科	咽頭結膜熱	12	0.50	0.84		眼科	RSウイルス感染症	1	0.04	0.07	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	57	2.38	1.34	◇		急性出血性結膜炎	-	-	0.08	
	感染性胃腸炎	178	7.42	4.84	◇	基幹	流行性角結膜炎	5	0.63	1.55	
	水痘	34	1.42	1.25	◇		細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	手足口病	2	0.08	3.12			無菌性髄膜炎	1	0.14	0.08	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.50			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.28	
	突発性発しん	20	0.83	0.54			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	1	0.04	0.19			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3	0.43		
	ヘルパンギーナ	35	1.46	1.01	↑						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
4	レジオネラ症	1	10	男性(60歳代)

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	週	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎
			第21週	25	11	101	236	27	2	1	13	-	9	20	1	-	2	-	-	1	-	-
第22週	10	18	92	229	38	5	-	16	2	8	17	1	-	5	-	1	-	-	5			
第23週	4	11	84	227	29	3	1	15	-	12	19	2	-	6	-	1	-	-	-			
第24週	2	12	72	188	47	3	-	19	3	17	24	1	-	2	-	1	1	-	4			
第25週	3	12	57	178	34	2	1	20	1	35	19	1	-	5	-	1	-	-	3			
定点当たり	広島市	第21週	0.68	0.46	4.21	9.83	1.13	0.08	0.04	0.54	-	0.38	0.83	0.04	-	0.25	-	-	0.14	-	0.43	
第22週	0.27	0.75	3.83	9.54	1.58	0.21	-	0.67	0.08	0.33	0.71	0.04	-	0.63	-	0.14	-	-	0.71			
第23週	0.11	0.46	3.50	9.46	1.21	0.13	0.04	0.63	-	0.50	0.79	0.08	-	0.75	-	0.14	-	-	-			
第24週	0.05	0.50	3.00	7.83	1.96	0.13	-	0.79	0.13	0.71	1.00	0.04	-	0.25	-	0.14	0.14	-	0.57			
第25週	0.08	0.50	2.38	7.42	1.42	0.08	0.04	0.83	0.04	1.46	0.79	0.04	-	0.63	-	0.14	-	-	0.43			
全国	第23週	0.17	0.85	2.63	6.65	1.35	0.39	0.25	0.70	0.02	0.48	0.35	0.08	0.01	0.64	0.01	0.05	0.25	0.01	0.31		
第24週	0.13	0.82	2.55	5.80	1.28	0.48	0.28	0.65	0.02	0.85	0.31	0.07	-	0.68	0.01	0.05	0.29	0.01	0.20			

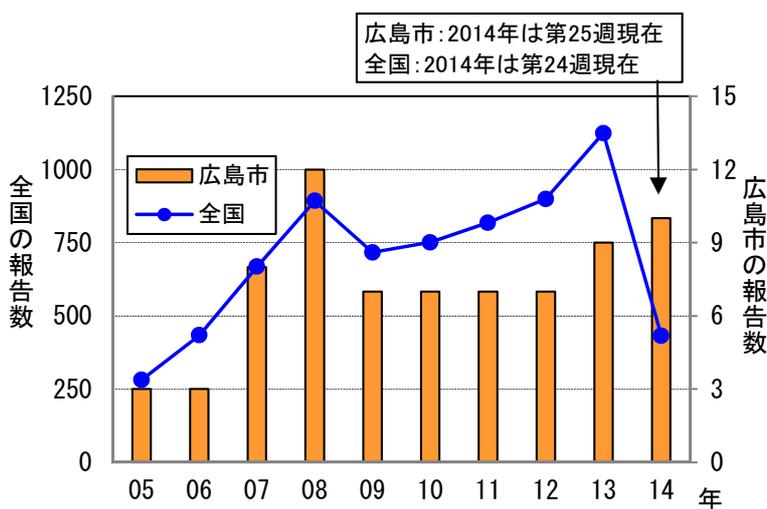
■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の消化器疾患	血便 嘔吐	0	男	2014/05/16	糞便	アデノウイルス1型
その他の疾患	発熱 気管支炎 熱性痙攣	1	女	2014/05/12	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス1型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】広島市及び全国におけるレジオネラ症の年間報告数の推移



レジオネラ症の広島市における報告数が、今年10件となり、昨年1年間の報告数を超えました。全国的にも年々報告数が増加しています。

レジオネラ症は、レジオネラ属菌による感染症で、全身倦怠感、頭痛、筋肉痛、発熱、肺炎などの症状を引き起こすことがあります。

レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル(細かい水のしぶき)を吸入することによって感染します。

特に高齢者や新生児、免疫力の低下した人などがかかりやすい傾向にあり、注意が必要です。なお、人から人への感染はありません。

感染を予防するためには、不衛生な場所でのエアロゾルの吸入を避けるとともに、感染源となる可能性のある設備(循環式浴槽、ジャグジー、加湿器、冷却塔など)の衛生管理を適切に行い、レジオネラ属菌の増殖を防ぐことが重要です。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2014年第25週(6月16日～6月22日)